

当院におけるフットケアチームと臨床工学技士の関わり

前田病院
古賀 幸雄

当院でのフットチェック・フットケアは当初看護師が主に行っていたが、2016年の下肢動脈管理加算算定を期に、臨床工学技士（CE）もその一部を補助する事となった。

最初は“足をみる”事への知識が無いなか、看護師から足をみる事を教わり、少しずつ足を知る事ができた。足を知る事で興味や疑問が生まれ、CEとしてどのように“足をみる”事に関わっていけるかという意識へと変わっていった。

最近では、泡洗浄や保湿クリームの塗布など CE が足に関わる内容も徐々に増えていった事で、2021年度からはフットケアチームに CE も加わる事となった。

これまで看護師からの受け身の姿勢であった CE が積極的に勉強会に参加するようになり心境や意識にも変化がみられ、CE のフットケアチーム入りは大きな意味があったと感じている。

また、この頃より透析条件への介入・提案の取り組みも始まった。特に CE の得意とするダイアライザの膜特性や除去効率などの知識を活かし、積層型ダイアライザをチームへ提案し導入する事となった。

積層型ダイアライザは、アクリロニトリル、メタリルスルホン酸ナトリウム共重合体を膜素材とし、 -89mV の陰性荷電を有している。この陰性荷電により、活性化補体やサイトカインを吸着し、同様に陰性荷電のアルブミンの漏出が少ないなどの特性をもち、末梢動脈疾患への効果も期待されている。

当院維持透析中の患者背景は、患者数284名（内男性：194名、女性：90名）、年齢 70.4 ± 11.0 歳、透析歴 7.4 ± 7.7 年、原疾患：糖尿病性腎症117名、喫煙者36名である。透析条件は平均透析時間6時間10分、膜面積 $1.9 \pm 0.6\text{m}^2$ 、血液流量 $231.9 \pm 64.6\text{ml}/\text{min}$ 、透析液流量 $475.2 \pm 65.8\text{ml}/\text{min}$ である。皮膚組織灌流圧（SPP）は右下肢平均 69.2mmHg 、左下肢平均 70.9mmHg 、両下肢もしくは1下肢 40mmHg 以下の患者は20名であった。当院血液透析導入後に外科的血行再建術を行った患者は4名、下肢切断術を施行した患者は2名であった。

当院では、SPP 45mmHg 以下の患者の中から食事状態や治療条件などを考慮し、現在6名に積層型ダイアライザを使用している。6名の患者背景は男性5名、女性1名、年齢 73.7 ± 5.7 歳、透析歴 6.0 ± 2.5 年、糖尿病性腎症3名、喫煙者2名である。

本学会で、当院での取り組みを報告するとともに、各施設の知見も伺いながら活発なディスカッションを行いたい。